



心に戻る

カルロス・デル・クエト

ようこそ。スワーガタム。Bienvenidos. Benvenuti. Willkommen.

バガヴァーン・ニッテャーナンダの太陽暦のプンニャティティをたたえるシッダ・ヨーガ・ユニバーサル・ホールからのライブ動画配信、「テンプルにいなさい」のサツァングに、皆さんを温かく喜びを持って歓迎いたします。このサツァングは、SYDA ファウンデーションによって制作されています。Siéntanse muy, muy bienvenidos a este satsang.

今日は、59 年前にバガヴァーン・ニッテャーナンダがその肉体を手放し、彼の魂がこの宇宙の粒子のすべてに溶け込んだ日を記念します。このような記念日はプンニャティティとして知られていますが、この言葉の豊かな意味を学ぶために、皆さんにシッダ・ヨーガの道のウェブサイトでプンニャに関する解説を読むことをお勧めします。大変良い解説です。

バデ・バーバが肉体の姿でいる間に彼の教えを受け取った人々も、そして彼がマハーサマーディに入った後の年月で教えを受け取った人々も、多種多様な形で彼の祝福を体験し続けています。

あなたが世界のどこにしようと、バデ・バーバの喜びにあふれたシャクティが、あなたの周りの自然の中でその存在を知らせているのを観察してきたかもしれません。グルデーヴ・シッダ・ピートゥには確かに、自然の不思議が豊かにあります。今日早くに、グルデーヴ・シッダ・ピートゥのグルクラの生徒であるラーダ・ヴィーチが、「テンプルにいなさい」のサツァングのマネジ

ングディレクターであるローヒニー・メノンに連絡をしてきて、朝の「シュリー・グル・ギター」の朗唱中ずっと、とても大きくて美しい青色のテンジクアゲハ——マハーラーシュトラの州蝶——がヒリダヤディープの周りで円を描いて飛んでいたことを話してくれました。これはまれで特別な出来事だったのです。夜明け前に蝶たちが活発に動くのは珍しいと、ラーダは教えてくれました。

シュリー・ムクターナンダ・アーシュラムでは、この数日間ほとんど、天候がガネーシュプリーの8月のようでした——つまり、モンスーンのようなのです。厚く重なる雲が空を覆い、雨が降ったり止んだりしていました。時々、太陽がこれらの雲間から顔をのぞかせていました。

しかし今朝、空は晴れ上がりました。そして金色に輝く太陽が昇って来ると、空は桃色、オレンジ色、そして青色が入り混じり美しいものでした。月もまだ見えていて、それもまた、バガヴァーン・ニッテャーナンダの太陽暦のプンニャティティというこの最も吉兆な夜明けの到来を告げているようでした。

私の名前はカルロス・デル・クエトです。私はメキシコで生まれ育ち、それから勉学のために英国に移りました。その後、両親の住むスペインの国民となり、その後オーストラリア出身のギターという素晴らしい妻と結婚しました。実のところ、ギターと私は、「2014 年オーストラリアのシッダ・ヨーガ・チャンティング・ツアー —— サッテャム シヴァム スンダラム」で共にセーヴァーをささげていた折に出会いました。私はシッダ・ヨーガの音楽家であり、そのチャンティングツアーの期間中、指揮者兼音楽の指導者でした。

現在、ギターと私は米国のシュリー・ムクターナンダ・アーシュラムに住み、セーヴァーをささげていますが、最近、インドのグルデーヴ・シッダ・ピートゥにも長期間住み、セーヴァーをささげました。ですから、このシッダ・ヨーガ・ユニバーサル・ホールはまさに自分の家のように感じ

ます。私は「テンプルにいなさい」のサツツァングの第 33 回の司会をすることをとても嬉しく思います。

私は、テンプルにいる、バデ・バーバと共にテンプルにいるという概念と体験に魅了されています。バデ・バーバは 1961 年に肉体を離れましたが、私たちは、彼がこの大地を歩いた時とまったく同じように生き生きとしているのを感じることができます。

Bade Baba trasciende el tiempo y el espacio. バデ・バーバは時間と空間、形あるものと無いものを超越しています。物理的に言えば、私たちはたった今、皆異なった場所にいます——しかし、本当の意味では、私たちは共にシッダ・ヨーガ・ユニバーサル・ホールにいます。ですから、シッダ・ヨーガ・ユニバーサル・ホールにること、バデ・バーバのテンプルにすることは、実際に、バデ・バーバの超越した境地をほんの少し感じることなのです。

これがグルの恩恵の力です。これがシッダ・ヨーガの教えの力です。これがシッダ・ヨーガの道の力なのです。



先ほど言ったように、4年前、私は幸運にもインドのガネーシュプリーにあるシッダ・ヨーガ・アーシュラム、グルデーヴ・シッダ・ピートゥでセーヴァーをささげました。そこに 16 カ月いました。

到着するより以前に、バデ・バーバの恩恵によって、私はすでに彼との強いつながりを育んでいました。そして私は、かつて彼が歩いたその同じ聖なる地を歩くにつれ、このつながりがより深まっていくのを感じました。

ある日、私はバデ・バーバのサマーディ・シュラインで行われる木曜日の夜のアーラティーに定期的に参加し始めようとひらめきを得ました。グルデーヴ・シッダ・ピートゥの日課の最後のチャンティングが終わると、私は徒歩でガネーシュプリー村へと出発したものでした。私はそれを巡礼と考えました。まず、バデ・バーバの家、カイルス・ニヴァースに寄って、バデ・バーバがよく沈黙の中で座っていた部屋で瞑想のために座りました。

その場所の雰囲気はとても平和に満ちていて、愛、好意、そして優しさで満たされていました。

La dulzura en ese espacio es realmente impactante. 時々、私の目には涙が浮かびました。

さて、毎週木曜には、ガネーシュプリーの人々がバデ・バーバの小さなムールティを持って村中を行進するのですが、私はこの行進の終わりにバデ・バーバのサマーディ・シュラインに着くよう見計らったものです。行進が喜びにあふれて到着すると、その雰囲気は、献身を表すチャンティングと、それに続くアーラティーにぴったりでした。そこにいとまるで魔法のように感じました。

そのようにして数週間が過ぎました。そしてそれから、どんなことが起きるかお分かりですね——自分の責任を果たすために、幾つもの選択をしなければならないことに気づくのです。私の場合もまさにその通りでした。私は完遂すべき多くのセーヴァー・プロジェクトを持っていたので、セーヴァーに没頭し、それも同様に大好きでした。

数週間たって、私は気づきました。ガネーシュプリーのバデ・バーバのサマーディ・シュラインを定期的を訪ねるという意図を守っていなかったと。そこで、行くことのできる最初の機会をつかみました。

それは月曜日の午後で、サマーディ・シュラインにはほとんど誰も居ませんでした。ささげ物をした後、私はバデ・バーバのムールティの前に座りました。心に感謝を感じました。内側で声が

聞こえ、こう言いました。「あなたが私に会いに来てから随分と時間がたったね」。それはバデ・バーバの声だと感じました。

そして私は心の中で、答え始めました。「はい、ごめんなさい。やらねばならないことばかりで、ここに来ることが難しかったのです…。私がそう言っていると、バデ・バーバの声が再びこう言うのが聞こえました。「私はこの場所を言っているのではない、ばか者！ 私が言っているのは…『ここ』のことだ…」

私はバデ・バーバが意味していることを理解しました。彼と共にいるためにガネーシュプリーのサマーディ・シュラインに行く必要はなかったのです。私には心の中で彼に会う時間をスケジュールに入れる必要があったのであり、私は、そうする意識的な努力をしていなかったのです。私はバデ・バーバの教えに感謝し、それを実行する決心をしました。

では、早回しをして、シュリー・ムクターナンダ・アーシュラムの 2020 年8月6日、ちょうど2日前に進みたいと思います。私は今日のサツァングの準備のためにバデ・バーバの temple にやって来ました。その後、ロビーを歩いている時に、ある人が私に、アムリット・カフェにある重いテーブルを動かす手伝いを頼んできました。手伝いをしに入っていくと、グルマーイがアムリット・カフェで 10 人余りの人たちと話しているのが見えました。

私の仕事は終わったので、そこを去ることにしましたが、まずは礼儀として、グルマーイの方を見て言いました。「おはようございます、グルマーイ！」そしてすぐにドアの方へと向かいました。

2歩進んだ時、グルマーイが私に呼び掛けるのが聞こえました。「待ちなさい。あなたの礼儀はどこにあるのですか？ あなたは何カ月も私に会っていなかったのに、『おはようございます、グルマーイ』だけで行ってしまうのですか？」

グルマーイの言葉を聞いた時、それはまるでカーテンが開いたかのようで、私はその状況の真実を見ることができたのです。実際に、私は何カ月も直接にグルマーイとのダルシャンをしていませんでした。私たちスタッフ・メンバーのほとんどは、3月にニューヨーク州が最初にロックダウンされて以来、ずっと自分のオフィスでセーヴァーをささげていたからです。けれども私は、グルマーイに直接に会ったのに、ぞんざいな挨拶をして、あまりにも急いで行こうとしていました。

後からこのグルマーイとのやり取りを熟考し、私はグルマーイが「あなたは何カ月も私に会っていなかった」と言った時、彼女は4年前にバデ・バーバが「あなたが私に会いに来てから随分とたったね」と言った時に使ったものと、ほとんど同じ言葉を使っていたことに気づきました。

私はこの原稿をその前の日に書いたばかりだったので、バデ・バーバの教えは私のマインドの中で新鮮でした。まさに次の日に、まさに同じ教えを私のグルの口から聞いたのは、驚くべきことでした。同じグルの原理が、ガネーシュプリーで数年前には内側から、そして今はグルマーイという私の生きたグルの姿で、私を導いていることに、私は畏敬の念に打たれました。私は信じられないほど幸運だと感じました。

これが、真理を示し、何度も何度も私たちを心へと戻るよう導く、生きているグルの慈愛と偉大さなのです。

